

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。



2022-23年度活動テーマ「つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」

第49回通常総代会開催報告 2022-23年度常総生協活動テーマは 「つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」

全議案可決承認されました。



常総生活協同組合 第49回通常総代会

(日時・場所) 2022年6月11日 10:00～11:41 常総生協本部
(出席) 有効総代数 100名(本人出席6名、書面出席94名)
(議長) 西村咲子、工藤道子(※議長は採決に加わらず)
(議事録署名人) 村田澄江、高橋幸子

※新型コロナウイルス感染防止のため「書面議決書」による出席をお願いし、規模を縮小した総代会となりました。

【議決結果】

【第1号議案】 2021年度活動報告・決算承認の件	賛成多数により承認
【第2号議案】 特別損失報告の件	賛成多数により承認
【第3号議案】 2022年度活動方針、予算(案)承認の件	賛成多数により承認
【第4号議案】 役員報酬承認の件	賛成多数により承認
【第5号議案】 組合員みなし脱退承認の件	賛成多数により承認
【第6号議案】 役員選任の件	賛成多数により承認
【第7号議案】 議案議決効力発生の件	賛成多数により承認

第25期役員一覧

今総代会にて役員改選となり、総代会にて役員選任承認後、第1回理事会が開催され3役（理事長、副理事長、専務理事）と代表理事の選任について互選されました。

役名	氏名	略歴等
理事長	増本 綾子	2016年6月就任 2018年6月～理事長重任
副理事長	佐藤 登志子	2016年6月就任 2018年6月～副理事長重任 関東子ども健康調査支援基金共同代表
(代表理事) 専務理事	伊藤 博久	2016年6月～専務理事重任（常勤） 茨城県生協連理事 千葉県生協連担当 東海第二原発運転差止訴訟 原告団世話人 生協ネットワーク21事務局次長 NPO法人里山再生と食の安全を考える会理事
(常勤) 理事	木内 和彦	2014年6月就任（常勤） 2016年6月常務理事 2022年常勤理事
(常勤) 理事	小宮山 遼	2020年6月～重任
理事	塩見 直子	2018年6月～重任
理事	中丸 晴子	2018年6月～重任
理事	中安 和代	2018年6月～重任
理事	高橋 百合子	2020年6月～重任
理事	小西 恵子	(新任) 2022年6月就任
理事	森 玲	(新任) 2022年6月就任
監事	谷田川 純子	2018-19年理事、2020年6月～重任
監事	宮本 慈子	2020年6月～重任
監事	管 剛文	2020年6月～重任

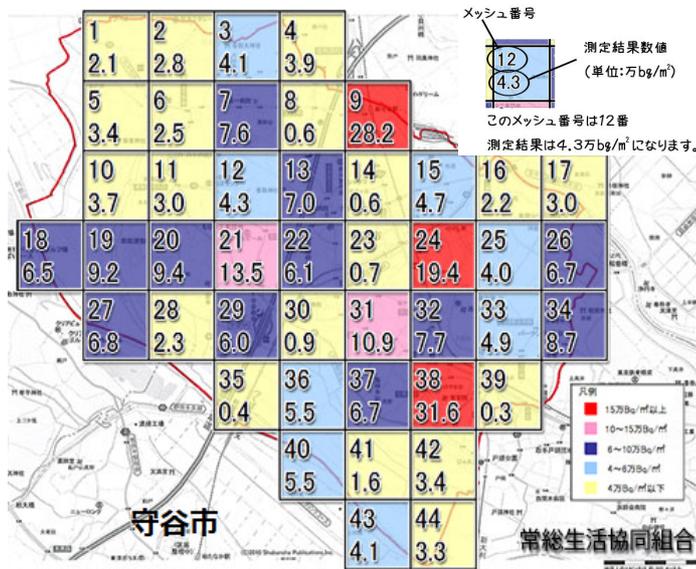


退任役員の方々、お疲れ様でした。

中山 恵都子 理事 (2期)
 簗輪 真実 理事 (1期)



福島原発事故から11年。今はどうなっているの？ 土壤汚染調査活動を実施します！協力者大募集！



福島第一原発事故から11年。年月とともに忘れない、忘れ去られるのが放射能汚染があった事。しかし、放射能は長い年月汚染を続けていることは、決して忘れてはいけない事です。事故当時、洗たく物を外に干して良いのか？母乳をあたえて良いのか？外（公園）で遊ばせて良いのか？この食品は汚染されているのか？と、様々な人が不安と闘いながら日々を過ごしてきました。

常総生協は空間線量、土壤、母乳、ハウスダストなどの検査をしてきました。関東子ども健康調査支援基金の立ち上げにも協力し、今も甲状腺検査を続けています。食品に関しても自前で検査機器を導入し、東北・関東・静岡の主原料産地に関しては商品カタログや、お知らせチラシに検査結果を掲載しながら検査を続けてきました。今回、10年経過して地域の土壤の放射能汚染はどうなっているのか？今一度土壤検査を実施していく事になりました。

○福島第一原発事故から10年後の土壤採取方針

- 1) 前回、2012年3月～6月に行った土壤調査では、市町村を1kmメッシュに区切って土壤採取した。その中で、4万Bq/m²以上あった場所で、10年後も4万Bq/m²以上あると予想される場所に絞って調査する。
- 2) 4万Bq以上あった市町村の中でも濃縮していそうな場所、立ち入り禁止になった場所が10年経過してどうなったのか？の追跡をする。
- 3) その中でも特に子どもたちが出入りしたり、遊んでいそうな場所（公共施設、通学路など）を優先的に調査していく。※「表面線源」が4万Bq/m²以上は法律で「放射線管理区域」とされている

○10年後も4万Bqあるかも？箇所

市町村	4万Bq推定箇所
かすみがうら市	9
土浦市	4
阿見町	32
牛久市	5
龍ヶ崎市	25
つくば市（中央）	5
つくばみらい市	2
守谷市	8
取手市	10
利根町	2
我孫子市	13
柏市（北部）	46
柏市（南部）	5
流山市	31
松戸市	32
計	229

＼土壤採取協力者募集／

今回は範囲も限定して採取していくために、情報共有をしながら土壤の採取をしていきます。

そこで、まずは土壤採取の方法も含めて皆で一度集まる場を作ります。ご協力頂ける方には説明会も含めてご参加頂けると幸いです。

なお、説明会に参加出来なくても、当日の資料やZoomでの録画をメール等で送りますので、**まずはご協力頂ける方の登録をお願いします。**

協力参加申し込みは右記のQRコード又は生協ホームページからご入力下さい。
 締め切りは7/20（水まで）。

- ・キックオフ＆説明会日時：2022年7月21日（木）
10：00-12：00
- ・場所：常総生協 組合員活動室
（守谷市本町281）
- ・呼びかけ：常総生協 脱原発とくらし見直し委員会、専務理事 伊藤

【常総生協】10年土壤採取協力募集フォーム



商品部news ～7月2回よりつくば茜鶏値上げのお知らせ～

今週お届けしている7月1回カタログの7ページでもお知らせしていますが、次回7月2回より「つくば茜鶏」が値上げとなります。

○値上げに至った経緯

2013年から常総生協で取り組みを開始しました「つくば茜鶏」ですが、報道でもあります通り、餌の原料となる穀物を始め、燃料費、包装材料、人件費など、すべて値上がりしています。

地場産の飼料米を取り入れるなど工夫を重ね、取り組み以来約10年価格を据え置きできたのですが、生産者と協議した結果、**7月2回より**値上げさせて頂くことになりました。（※7月2回～新価格表）

商品名	旧規格	新規格	旧組価	新組価	増減値
つくば茜鶏 モモ	300 g	250g	529円	697円	+168円
つくば茜鶏 ムネ	300 g	250g	400円	430円	+30円
つくば茜鶏 ササミ	300 g	250g	605円	598円	-7円
つくば茜鶏 手羽先	400 g	300g	567円	475円	-92円
つくば茜鶏 手羽元	400 g	300g	567円	475円	-92円
つくば茜鶏 ムネモモ唐揚げ用	250 g	250g	529円	624円	+95円
つくば茜鶏 ムネモモ唐揚げ用2パック	250 g ×2	250 g ×2	529円	626円	+97円
つくば茜鶏 挽肉	500 g	500g	713円	796円	+83円
つくば茜鶏 挽肉 (少量)		250g		420円	
つくば茜鶏 ムネモモ小間切	250 g	250g	529円	598円	+69円
つくば茜鶏 レバー	250 g	250g	259円	289円	+30円
つくば茜鶏 親子丼の素	130g	130g	162円	205円	+43円
つくば茜鶏 親子丼の素 2袋	130g	130g×2	162円	200円	+38円

7月2回より、カタログに掲載される挽肉は250g規格が標準となります。500g規格につきましては不定期での掲載となりますのでご注意ください。

■組合員のみなさんへのお願い～今度は常総生協が生産者を支える番です！～

	つくば茜鶏	一般的ブロイラー
飼育期間	70 日前後	55 日前後
飼育密度	10 羽 / m ²	16 ~ 18 羽 / m ²
環境	開放鶏舎	ウインドレス鶏舎
飼料	<ul style="list-style-type: none"> ●非遺伝子組み換え、ポストハーベストフリーの飼料。 ●国内産飼料米を給餌（飼料の海外輸入依存を低減させるため）。 ●動物性たんぱく質（肉骨粉、魚粉）不使用。 	<ul style="list-style-type: none"> ●遺伝子組み換え不分別の飼料。ポストハーベストの有無も不明。 ●一般的には肥育効率を高めるためにハイカロリーな油脂を飼料に混ぜます。
抗生物質の使用	なし	疫病の予防の為抗生物質を使用。
鶏の種類	レッドブロー（原種フランス産）	チャンキー、コブなど
加工方法	<ul style="list-style-type: none"> ●屠畜したその日のうちに生原料を自社で加工したワンフローズン。 ●使い勝手の良いバラ凍結加工。 	<ul style="list-style-type: none"> ●屠畜を委託し、冷凍原料を引き取り半解凍状態で加工して再凍結。

つくば茜鶏は、フランス生まれのレッドブロー種で、2022年6月現在、野口さん・他2組（直営農場と2ヶ所の契約農場）の生産者が育てている銘柄鶏です。全ての生産者が筑波山付近におり、養鶏を営んでいます。一般のブロイラーが50日前後の飼育期間のところ、つくば茜鶏は70日前後。全飼育期間、開放鶏舎で平飼いをしております(上記ブロイラーとの対比表をご覧ください)。年々養鶏農家が減少している中、**少数精鋭だからこそ出来る養鶏、生産者のつくば茜鶏に対しての取り組む姿勢がとても貴重です。**今回は止む無く値上げとなりますが、引き続き「つくば茜鶏」のご利用をお願いします！！



鶏にも牛・豚同様に様々な部位があり、その中でも「モモ肉」が多く出荷しております。一方でムネ肉、ささみ、レバーの出荷はなかなか伸びず、可能な限り**バランスよく**他の部位もご利用いただけますと生産者も助かります。組合員みなさんからの食べ方のアイデアも、ぜひ生協にお寄せください！

（畜産担当：小室）